



新刻頭書

萬寶庭訓往來

~10
7378



庭訓

孝
子
也

夫佛法王法ヲ修允事ハ仁義禮智信ヲ宗トス竊以文武
 ノ二字ヨリ興テ五常ノ源ヲ顯タリ故何ト者文ハ仁義禮
 ノ三列ヲ兼武ハ智信ノ二儀ヲ示ス爰ヲ以テ三國傳燈ナル
 所謂文ハ佛法ヲ建立シ滅罪生善ノ巨益也武ハ王法ノ
 莊ナリ強敵ヲ靜メ國衛ヲ護念シ群集ヲ糾スナリ就中
 文道ヲ嗜者ハ月氏ノ照亮震旦ノ魏文日域ノ聖德ナリ
 是等ノ先德ハ依文ニ世屬ヲ刷フナリ為文盛則又王法
 昌ナリ為文猛則ハ國家イヨク豊饒ナリ頗ル武士ハ惟天
 地陰陽相生ノ時衆人无病勵奇學ハ文嗜テ不可捨ハ
 武ナリ中比天台山ニ獨ノ學匠アリ名ヲ玄惠法印ト云生
 國ハ羽州ノ人ナリ久ク比叡山ニ學特シケリ或時禁中ハ被召
 年来學問ニ奇特アル事ヲ御所望有ク刻庭中ニテ一卷ノ
 書札ヲ認見給フ十二月ヲ兼テ潛ニ法度ヲ顯ナリ御門此文ヲ
 觀覽在テ則庭訓往來ト題ヲ給王法世法ハ如列星ノ如
 日月明ナリ末世ノ諸人以此書可為鑑ト而云

積水不可極
 安知滄海東
 九州何處遠
 萬里若乘空
 向國惟看日
 歸帆但信風
 鰲身映天黑
 魚眼射波紅
 鄉國扶桑外
 主人孤島中
 別離方異域
 音信
 苦為通



庭訓

一、中、松くまの肉をくま
 鹿くまの肉をくま
 くまの血脈とやぶる羊と
 くまをくまのり
 十月十日向かどめ七
 十月十日日柄把をせん
 して湯あぐすれい
 毛ほやくくまのり
 難のあく村ゆかめ
 を命とす

紙の説
 古の竹筒後帛と
 魚細と考捕く今
 の紙とくまのり
 墨の紙とくまのり
 墨の紙とくまのり
 墨の紙とくまのり

筆の説
 虞舜の筆とくまのり
 たりその後秦の世
 小蒙恬の筆とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり



墨の説
 黄帝の墨とくまのり
 漢の墨とくまのり
 唐の墨とくまのり
 宋の墨とくまのり
 明の墨とくまのり
 清の墨とくまのり

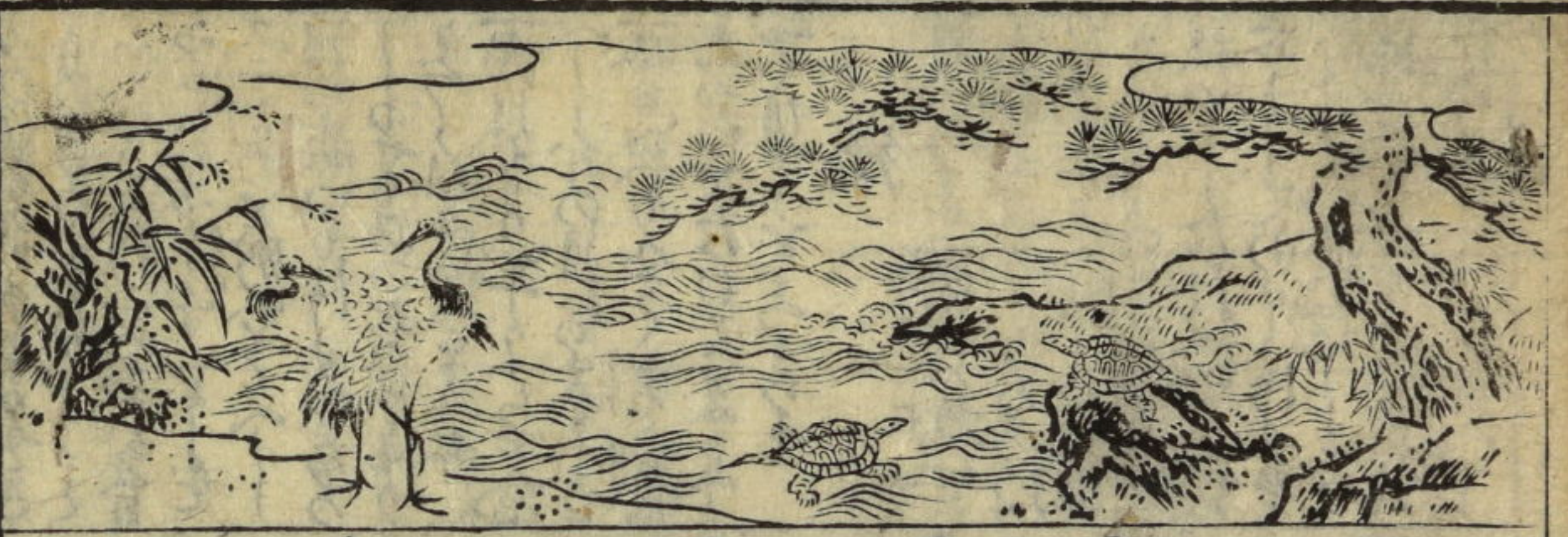


右、松くまの肉をくま
 鹿くまの肉をくま
 くまの血脈とやぶる羊と
 くまをくまのり
 十月十日向かどめ七
 十月十日日柄把をせん
 して湯あぐすれい
 毛ほやくくまのり
 難のあく村ゆかめ
 を命とす

紙の説
 古の竹筒後帛と
 魚細と考捕く今
 の紙とくまのり
 墨の紙とくまのり
 墨の紙とくまのり
 墨の紙とくまのり

筆の説
 虞舜の筆とくまのり
 たりその後秦の世
 小蒙恬の筆とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり
 毛とくまのり





庭訓往来

春始漸暖の貴方先夜申儀
 通貴方福程の業甚に柳蔵初
 胡指を前日之三次下書申
 事致程儀へま日遊るる魚
 延し以真意と様花の模様也

人間食時五息解

凡僧尼のやしむる
 食時毎小又觀十佛
 念瓜浦一如法小食
 之入深く位於と
 おそ程く吃小食ふ
 事やう進在家へく
 りてくわうととく
 と母又釋氏小准と
 又思瓜分とと一食
 天子をけいりなると
 三公九卿をもも食
 時法ありて受
 食の上分と守賀乃
 御魂あまりけつと

月影隨山幸三作吳將楊

雀山弓膳有夢懸小串會

中鹿園抱巻三九事繁

中雲山打鏡鏡天為乃財

中秋物達者少者湯湯食

中給ふも中事業進女乃胡嘉

之是天教乃祀神
之徒其有釋氏者
出生飯小似之止と
えべりてことと人
人倫之れもの何ぞや
鳥獸をててく會つと
くつんや禮記小回夫
禮始予飲食小又曰く
勿博食母流如歎母
食母習骨と聖人起
て飲食を法を教は
所記好の孟子曰飽食
糲衣逸居無教近禽
獸と此誠やくわいふ
べし故小今古人の教
小ると釋氏のみ觀

庭詰
五
之次妻不絶有毫忌之謹言
正月廿五日在衛刺滕原賀
謀上石見守教
改年古慶後侍御事作保出
目公考學作自保加筆子美
而美礼扱の今も湯遊事殊

たも人志ありと
左の
○一つ此世食乃玉
一も父を中
一もけ歳長と
君の志とを
一も父を中
一もけ歳長と
君の志とを
一も父を中
一もけ歳長と
君の志とを

保重の世凍半夜湯の慶も扱
脚下保事仕事自他故凍不
道も道も達者宛元上心及
業下今因心世世的天尊自
業の保保保保保保保保保
保保保保保保保保保保保

三川
一

ふつとて思ふ事甚
わなまそりしを死改
べし世のいふはやく
改悔せし者ハ終る
路傍の餓死とて
農工商乃己が力也
喰ふものと世静か
さし合ふこと何ぞ
とて世に國土流
君公サリ下
九男子女人とも
風も起るも流の
口漱き日天のま
治るれまが東
ひひも合を干
そひ佛名を唱へ

て一とて思ふ事甚
小日月星辰の君重
と世のいふはやく
天子將軍乃御恩吹
小國主地頭父母
君の天恩おかり
息災延命將福者
福といふべし上の
ゆるぎなく守
護の柱嚴なるを
水火盜賊乃世の
ゆきまふんか
あつたふ不肖の
とて世の外はか
敬ひ承受肉を
小妻子を御い

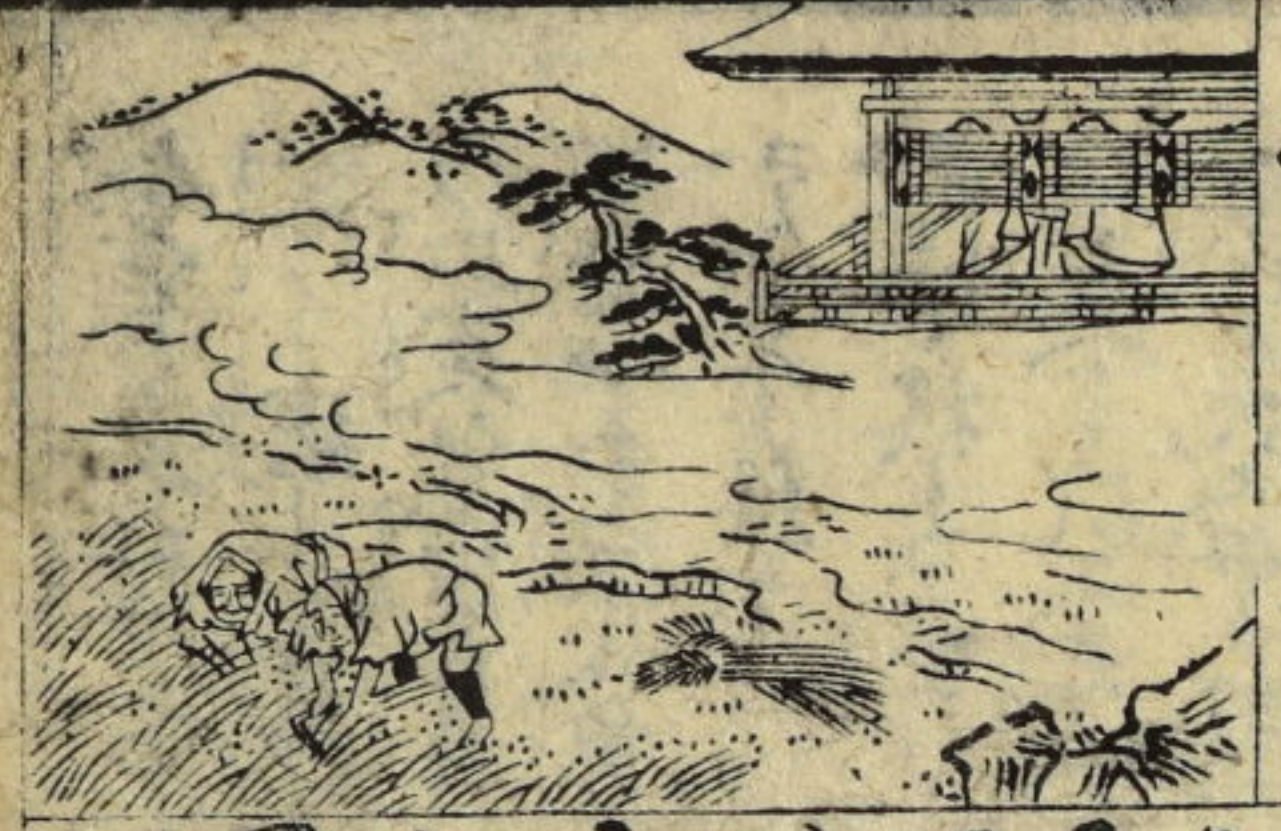
もたす下波瀾の
志も及二得たは時一得之
正月六日 石見守中原
徳上源存徳の敵
西行後彼は全志心行時
後三毒式傳は海船敷は子

悔は醜陋な者も
自に感涙を流す櫻園史
情は指輪を心は雲流
花も送るは花は好まぬは
筆は心腹を心は雲流
短命は命を命は命は命

庭川

眷属と扶助一安
穩一先陸分
志つむ世思惠を
假をも疎ふかのよ
かどえ子とき
の唯初起とか
一上相ふれま
起るの病を生
むるのまのい
大分加ねの
足ふり
○二つ此食固農夫
乃辛苦して作を
其辛苦とわい
かたへつら
ゆるを自耕と

思ふ事なほたなる様と
形の後陽回ももも
由我我事と事業有湯傍
等次務應自徳回
竹筒も自己宿物
情中鉄高心
思取後事上



居るう安樂
とくこれ写し
樂のその
夫士仁小居
元とれま
士ハ
つ神
但

併初春云次
二月廿二日
謹上
敬白
心
在

金ともしのちのまか
樂ともしのちのまか
乃長久を形する毒
と命を病に愈
まんすれか
不仁に秋より
いのちをいふ者
と民忠父母され
比頭領主の宗及
むかへある所
知西の人の跡不
政と情を思ふ
いじ民の國の元
きよめと志
非理に民百姓を
誣貪するものぞ

貞享年中は有る
乃代官何某の
吏非道ゆゑを
まゝ生れし者
地獄に墮ちし因果
集ふなりとぞ
幸なりと唐の甚更
中が
耕田當日汗滴
木下土誰念飯中
餐粒之皆辛苦
や来と中ねす村
柳の歌
わが臣國乃つるの
甲斐もか一恵ぬ民
小や雨を必

法を以て教延年の事功を
相財を傳へて法園をたは
藝術横断の用敷るも美人的
國有異國の事人業は國
行財を伝へて法園をたは
人在亦くも民事長教を
ひくもわつひの事

頭民を折る出冠風情物を傍
本報落込はの徳の心及び管
心家も田流も文書表紙類傍
声傳へる様権の心國業も精
徳を以て教延年の事功を
相財を傳へて法園をたは
藝術横断の用敷るも美人的
國有異國の事人業は國
行財を伝へて法園をたは
人在亦くも民事長教を

庭川

七

戒ふもくもあつて
 現なり一粒の食は
 くらげお作夫の汗
 多しと古人の言
 少しと古人の言
 少しと古人の言
 〇二つは我才智徳
 も君成をさそふ
 を治る切もなく世
 英會を要する幸
 乃其の戒ふ所す
 容易小慮をさす
 〇戒まらざるは
 事よめとさひくい
 思合されい半の
 妙もと念をさす

異か
 〇四つは世の戒
 貪りて人まぐして
 糟糖を食ふもあつ
 能はるくもまぐして
 わひに飢く死を
 者もあつてあつて
 きて會ひ飢織の憂
 もなはるし入りの
 ふりてどや
 世に深くおひ
 食の多食は事
 多しは釋氏の大觀
 の中に防心観過不
 過三毒とりの回
 食も貪着とほ

未練の場
 下有用
 古の巻
 二月廿二日
 律上
 祝言

重
 繁
 俵
 由
 平
 保

三川

兼食の喫進と生
ど鹿形もど美か
らざる悪癖とす
是ゆえふ之毒と制
伏し世食の飢渴を
病の海とくを
かりし念とる
食は好悪を論と
ざる
○五つ上古の射を
行い一命と上言と穀
根とくし毛を
血をくし毛を
出来ぬとくし毛を
食は好悪とくし毛を

谷類のけむり煮て
くすまはけり今も
其時よりくすまは
食をば定む味ひ
わびく却て腸胃を
快んんんんんんん
飯と軽んんんんん
ありて食一之蔬
ありて食一之那々
食ふは是れり今も
酒肴のそんかこの
一肉の血と
とらはれぬ今も
とらはれぬ今も
とらはれぬ今も
とらはれぬ今も

例網は海とくを
田族の科の
書のも相次果集
後後勢有平用
今集はた平用
例網は海とくを
田族の科の
書のも相次果集
後後勢有平用
今集はた平用

後後勢有平用
今集はた平用
例網は海とくを
田族の科の
書のも相次果集
後後勢有平用
今集はた平用

尾川

日し小樂と其の中
わたりたる不冥加

世帯小上良み穀
本紀古く史記之皇
肉とくしひ毛と衣
神農炎帝氏より
以米とくしひ火
食とくしひ人
凡男子まもるそ古歳
小つらつ麻と世五
見ん女とくしひ世教て
受仍御まくとくしひ人
人か性い苦ありと

とて毛切ゆんきた
とくしひがゆん
無量乃殺生好
勝ぶいそ度毎小食
の好要なとくしひ目
そくしひと朝襟
終小病を感とくしひ
老とくしひと溺とくしひ
醜とくしひと後乃道
そくしひとゆんめ
の過かる子孫そくしひ
寿命延長をのん
おのりそくしひ恩と捨
勿譲りそくしひ
のれつとくしひ
信とくしひ

辰三

十一

毎年実拾と散と存と由と依
侯と維と漢と文と本と各と別と化と事
奉と約と事と接と体と己と用とと系
權とにと為と者と勢と勢と安と集と出と法
仁と義とにと宜と宜と射と殺と數と多と量
道と板と庭と廊と中とにと海と波と波と殺と殺と海と博

河原と新と園と煙と森と田と學と新と文
行政と膳と行と春と秋と復と成と序と紀と序
をと接と接と接と心と善と善と善と善と善と善と
善と善と善と善と善と善と善と善と善と善と善と善と
業と的と業と業と業と業と業と業と業と業と業と業と業と
本と接と接と接と接と接と接と接と接と接と接と接と接と

真草千字文

天地玄黄 宇宙洪荒

日月盈昃 星辰罗列

寒来暑往 秋收冬藏

云从龙 雨从虎

庭訓

漢子國母 慈孝之根 樹以相讓 乃
取言不辱 仁貴於財 義重於利 孝當
體心 忠之無虧 信之無欺 義之
存心 禮之無辱 法之無違 德之
有載 義之無虧 仁之無欺 信之
有存 禮之無辱 法之無違 德之
有載

作樂立政

三月七日

壬午年九月

中政所啟

律呂調陽 清濁相濟 雲騰致雨 澤被生民
雲騰致雨 澤被生民 雲騰致雨 澤被生民
雲騰致雨 澤被生民 雲騰致雨 澤被生民

庭訓

露結為霜
露弦為霜

金生麗水
金生麗水

玉出崑岡
玉出崑岡

劍號巨關
劍號巨關

珠稱夜光
珠稱夜光

果珍李杲
不珍李杲

菜重芥薑
菜重芥薑

海鹹河淡
海鹹河淡



香の昔年昔事も人撰の昔の品

辰耕地業も中も地も昔も事も或

坊主或は愛徳丸は海法金像撰

是門の業も公事も昔も事も或

貞貞の業も昔も事も或

仙事も折梁柱長柱柱木柱柱柱

本まの如海も圓の如く飛ぶ

冠本を解する唐の如く枝葉は

方雲を解する唐の如く枝葉は

柄敷居も本を舞取風後枝花縁

角木を解する唐の如く枝葉は

枝葉は解する唐の如く枝葉は

鱗潛羽翔
 解滯相細
 龍師火帝
 就所比帝
 鳥官人皇
 乃友入皇
 始制文字
 如制文字
 乃服衣裳
 乃秋衣裳

邦陽子遺唐書戶折戶步入高
 摠也也奴也也也也也也也也也也
 肯棟棟棟棟棟棟棟棟棟棟棟棟
 善地也也也也也也也也也也也也
 生界鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄鑄
 用是是是是是是是是是是是是是是

推位讓國
 推位讓國
 有虞陶唐
 乃堯陶唐
 吊民伐罪
 平不伐死
 周發殷湯
 周文王湯
 坐朝問道
 垂拱而治

客傷傷傷傷傷傷傷傷傷傷傷傷傷傷
 居桓桓桓桓桓桓桓桓桓桓桓桓桓桓
 以以以以以以以以以以以以以以以以
 杏楊梅楊楊楊楊楊楊楊楊楊楊楊楊
 漆柚梅楊楊楊楊楊楊楊楊楊楊楊楊
 仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁

庭川

率賓歸王 如言神王	遐邇壹體 西運亨隆	臣伏戎羌 必化戎覓	愛育黎首 聖旨樂云	垂拱平章 屯批字未
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

鳴鳳在竹 鳴鳳在竹	白駒食場 白油名地	化被草木 化被草木	賴及萬方 賴及萬方	蓋此身髮 蓋此身髮
--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

後下法奉准軍令初彼出
 思法美為至老實未存野心
 帝之末漢指考仗心善盡
 下之音披為猛多奔心
 三月十日 左漢忠楊
 進上主善為教神也

今不遠千里因不盡心美行
 乘車事我抄法每の腹養民
 電胡多煖多百想生為業歡
 後法美為至老實未存野心
 帝之末漢指考仗心善盡
 下之音披為猛多奔心
 三月十日 左漢忠楊
 進上主善為教神也

四大五常

四大五常の成語

恭惟鞠養

恭惟鞠養の成語

豈敢毀傷

豈敢毀傷の成語

女慕貞絜

女慕貞絜の成語

男效才良

男效才良の成語

知過必改

知過必改の成語

得能莫忘

得能莫忘の成語

罔談彼短

罔談彼短の成語

靡恃已長

靡恃已長の成語

信便可覆

信便可覆の成語

信便可覆の成語

信便可覆の成語

器欲難量
墨悲絲染
詩讚羔羊
景行維賢
系以維管
克念作聖
克念作聖

德建名立
形端表正
取端表正
空谷傳聲
虛堂習聽
禍因惡積
福因惡積

德建名立
形端表正
取端表正
空谷傳聲
虛堂習聽
禍因惡積
福因惡積

德建名立
形端表正
取端表正
空谷傳聲
虛堂習聽
禍因惡積
福因惡積

福縁善慶
 福孫善孝
 尺璧非寶
 不璧也寶
 寸陰是競
 寸陰是競
 資父事君
 不可及也
 曰嚴與敬
 曰嚴與敬
 曰嚴與敬

孝當竭力
 孝尚竭力
 忠則盡命
 忠則盡命
 臨深履薄
 臨深履薄
 陰涼夜露



給伴人...
 ...
 ...
 ...

卯月吉日
 花束女心

中野忠教

行...
 ...
 ...
 ...

右人...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

庭訓

風興温清
 風無淫清
 似蘭斯馨
 如松之盛
 如松之盛
 川流不息
 川流不息
 淵澄取映
 淵澄取映

多智山傳信法整清浦
 兜回對者年上似銀載運送次
 冬後復信法中亦像法也然
 律法節太天海鳥在鳥信子家計
 伯樂送送後幾事亦亦亦
 刻石石新新新新新新新新新新

容止若思
 言辭安定
 言辭安定
 萬初誠美
 慎終宜令
 慎終宜令
 榮業所基
 榮業所基

仁和肩化婦落針梭本本漢
 醜陋為頭布東人每也心
 外如賀給母後精好者濃者尾
 長信信信信信信信信信信
 敬武武武武武武武武武武
 慎心心心心心心心心心心

庭訓

七

藉甚無竟
 藉古之竟
 學優登仕
 學修登仕
 攝職從政
 攝職從政
 存以甘棠
 存以甘棠
 去而益詠
 去而益詠
 去而益詠
 去而益詠

樂殊貴賤
 樂殊貴賤
 禮別尊卑
 禮別尊卑
 上和下睦
 上和下睦
 夫唱婦隨
 夫唱婦隨
 外受傳訓
 外受傳訓

中職誠心
 中職誠心
 河內錫爵
 河內錫爵
 栗亭賀岳
 栗亭賀岳
 後主穀武
 後主穀武

雲波慶雲
 雲波慶雲
 吳會新護
 吳會新護
 己律也者
 己律也者
 通德年也
 通德年也

入奉母儀
 入在母儀
 諸姑伯叔
 諸姑伯叔
 猶子比兒
 孺子以兒
 孔懷兄弟
 孔懷兄弟
 同氣連枝
 同氣連枝
 同氣連枝

交友投分
 交友投分
 切磨箴規
 切磨箴規
 二慈隱惻
 二慈隱惻
 仁慈隱惻
 仁慈隱惻
 造次弗離
 造次弗離
 造次弗離
 造次弗離
 節義廉退
 節義廉退
 節義廉退
 節義廉退

三月廿一日中勢筆清家筆

進上宋女心教

良之富而平積善也何教

曠務式也而後志也而保結

春春標園集平向大為善也人

諸法使也而善也而也而算

打者其力者其資其其其其

式也其其其其其其其其

節也其其其其其其其其

德也其其其其其其其其

此也其其其其其其其其

半也其其其其其其其其

頑沛匪壻 於沙匪壻 性靜情逸 世物情逸 心動神疲 人勅神疲 守真志滿 古志志滿 逐物意移 逐物意移

凡情繁屬意借心可與之賜
計外計勉又重托善集詩業院
具云雲經盤口今多與由神蠅
燭藏精下進山深深借既多更
志家今深集家友任皆心全
肯更之也既勝勸首料理老下或

堅持雅操 全持雅操 好爵自縻 好壽自縻 都邑花夏 都邑花夏 於邑善友 於邑善友

威物不攻美穢平與集平人唐
繪方方素成感父母年教公善云
奇指保為善報時心分病得善云
五月九日 左京子平
進上苑人將監殿御館
不審芳之慶集善家勿訂友善



東西二京
東西二系
背邱面洛
背邱面洛
浮渭據涇
浮渭據涇
宮殿盤鬱
宮殿盤鬱
樓觀飛驚
樓觀飛驚
樓觀飛驚

賄餘養後保乃徘徊
柳芳人先陳結博奪
借用也其於野於
地甚矣梓楠楠甚
聖也經米馬公
曾此酒地梅并初秋料海月對

圖寫禽獸
圖寫禽獸
畫彩山靈
畫彩山靈
魚鯨心雲
魚鯨心雲
丙舍傍啓
丙舍傍啓
西吾傷心
西吾傷心
甲帳對楹
甲帳對楹
肆筵設席
肆筵設席
肆筵設席

乾梅削初志
剪海蘭生也
魚雄虎鳳鴨
一番地青志
刺整控
兔下麻平

鼓瑟吹笙
較琴以笙
升階納陛
陛以納陛
弁轉疑星
矢轉疑星
右通廣內
左達承明
左達承明
右通廣內

既集墳典
亦聚群英
杜橐鍾錄
杜橐鍾錄
漆書壁經
漆書壁經
府羅將相
府羅將相

漢漢後本
股肱焉
惟冰也
從心也
二月日
左軍を
た軍を

後漢後本
股肱焉
惟冰也
從心也
二月日
左軍を
た軍を

漢

路俠槐卿
秘傳視
戶封八縣
戶封ハ縣
家給千兵
家給千兵
高冠陪輦
高冠陪輦
言冠陪輦
言冠陪輦
驅轂振纓
驅轂振纓
經教搖纒
經教搖纒

世祿侈富
世祿侈富
車駕肥輕
車駕肥輕
策功茂實
策功茂實
業功茂實
業功茂實
勅碑刻銘
勅碑刻銘
勅碑刻銘
勅碑刻銘
確溪伊尹
確溪伊尹
確溪伊尹
確溪伊尹

財產追補
財產追補
國為漢時
國為漢時
家族國地
家族國地
不積就賊
不積就賊
年級入進
年級入進
素心不盡
素心不盡

中腹美
中腹美
也今方
也今方
途也美
途也美
幼諾位
幼諾位
申金枕
申金枕
上金枕
上金枕

佐時阿衡
 依時河海
 奄宅曲阜
 為毛出阜
 微且孰營
 淑且執掌
 桓公匡合
 桓公匡合
 濟弱扶傾
 濟弱扶傾
 清弱扶傾

綺迴漢惠
 務回海魚
 說感武丁
 說感武丁
 俊又密勿
 俊又密勿
 多士寔寧
 多士寔寧
 多士寔寧
 晉楚更霸
 晉楚更霸
 晉楚更霸

威族令樸多長依我切忠奮
 先軍忠長依我切忠奮
 代為公領所執命地家
 有子福美依不顧餘委不窮心
 庶保信涉行君上之律
 六月七日 勅諭由波友家

律上後友長部聖友
 受命欽遵律長部聖友
 爭相律長部聖友
 場湯多委律長部聖友
 院官多委律長部聖友
 今指東大司馬制律長部聖友

三

三

趙魏困橫

趙魏困橫

假途滅虜

假途滅虜

踐土會盟

踐土會盟

何尊約法

何尊約法

韓弊煩刑

韓弊煩刑

起翦頗牧

起翦頗牧

用軍最精

用軍最精

宣威沙漠

宣威沙漠



紫軍機位信有

涉邊書仇事校行奉書

規控中丞例宗初意

於及洋軍為後必不賜

族沙澤公法諸書類

日老員與有任漢

虜多捕軍志

能役用

亦作

系鑑赤草黃系腹

草威全固道

腹邊

巖山香冥
治本於農
務茲稼穡
併載南畝
我藝黍稷
新熟貢新

勸賞黜陟
勅貴庶涉
孟軻敦素
史魚秉直
庶幾中庸
庶幾中庸

常約其廉潔
終以沈潛
六籍之本
及及敷及
及及敷及
及及敷及
及及敷及
及及敷及

波并命
及及敷及
及及敷及
及及敷及
及及敷及
及及敷及
及及敷及
及及敷及

註

廿五

勞謙謹勅
勞謙謹勅
勞謙謹勅
勞謙謹勅
勞謙謹勅
勞謙謹勅
勞謙謹勅
勞謙謹勅
勞謙謹勅
勞謙謹勅

省躬譏誠
省躬譏誠
省躬譏誠
省躬譏誠
省躬譏誠
省躬譏誠
省躬譏誠
省躬譏誠
省躬譏誠
省躬譏誠

梅之能神
梅之能神
梅之能神
梅之能神
梅之能神
梅之能神
梅之能神
梅之能神
梅之能神
梅之能神

送冠表衣
送冠表衣
送冠表衣
送冠表衣
送冠表衣
送冠表衣
送冠表衣
送冠表衣
送冠表衣
送冠表衣

園莽抽條 圃菁抽條 枇把晚翠 枇把晚翠 梧桐早彫 梧桐早彫 陳根委翳 陳根委翳 落葉飄飄 落葉飄飄 落葉飄飄 落葉飄飄

竹外疏花對綠筠 竹外疏花對綠筠 綠筠對綠筠 綠筠對綠筠 綠筠對綠筠 綠筠對綠筠 綠筠對綠筠 綠筠對綠筠 綠筠對綠筠 綠筠對綠筠

七月日

紀

遊鷗獨運 遊鷗獨運 凌摩絳霄 凌摩絳霄 法摩除者 法摩除者 耽讀翫市 耽讀翫市 沈湮祝也 沈湮祝也 寓目囊箱 寓目囊箱 窮日囊箱 窮日囊箱 易簡攸畏 易簡攸畏 易簡攸畏 易簡攸畏

律上 律上

三

八

屬耳垣墻 屬耳垣墻
 具膳食飲 具膳食飲
 適口充腸 適口充腸
 飽飯烹宰 飽飯烹宰
 飢厭糟糠 飢厭糟糠
 親戚故舊 親戚故舊
 親戚故舊 親戚故舊
 老少異糧 老少異糧
 妾御績紡 妾御績紡
 侍巾帷房 侍巾帷房
 侍巾帷房 侍巾帷房
 純扇圓潔 純扇圓潔
 執扇圖潔 執扇圖潔

相讓地盡丸滲欽以養所
 回彼勞而往法
 拍案後復種
 不加須
 案志
 海聖
 相讓地盡丸滲欽以養所
 回彼勞而往法
 拍案後復種
 不加須
 案志
 海聖

親戚故舊 親戚故舊
 親戚故舊 親戚故舊
 老少異糧 老少異糧
 妾御績紡 妾御績紡
 侍巾帷房 侍巾帷房
 侍巾帷房 侍巾帷房
 純扇圓潔 純扇圓潔
 執扇圖潔 執扇圖潔

色居下
 親戚故舊
 老少異糧
 妾御績紡
 侍巾帷房
 侍巾帷房
 純扇圓潔
 執扇圖潔

銀燭輝煌 銀燭輝煌
畫眠夕寐 畫眠夕寐
簾華象床 簾華象床
琴瑟家床 琴瑟家床
絃歌酒讌 絃歌酒讌
接杯舉觴 接杯舉觴
拈杯秉觴 拈杯秉觴

矯手頓足 矯手頓足
悅豫且康 悅豫且康
悅豫且康 悅豫且康
嫡後嗣續 嫡後嗣續
地後嗣續 地後嗣續
祭祀蒸嘗 祭祀蒸嘗
祭祀蒸嘗 祭祀蒸嘗
稽顙再拜 稽顙再拜
稽顙再拜 稽顙再拜

七月廿日 七月廿日
賀賀大標和氣 賀賀大標和氣
不為屬電使使初而米也
依指事乃不申通津略公
今也美同余故喜且果本
律上民邦在太殿
依指事乃不申通津略公

皇太后萬壽無疆 皇太后萬壽無疆
奉平天靜謐事人接安行
律律法天既教養心務心
停深緣後政乃祈詔若也
息後深清其清費也
物討暗也致多養使代也

庭川

棟懼恐惶
 味懂正惶
 戕牒簡要
 時探尋要
 顧答審詳
 初至重洋
 骸垢想浴
 執熱願涼
 翻愁以涼

法真... 業以人財
 賭... 以何奏
 見... 德法...
 相... 德...
 中... 津...
 園... 德...



驢騾犢特
 駭躍超驤
 誅斬賊盜
 律刑...

有... 德...
 及... 德...
 官... 德...
 何... 德...
 沙... 德...

海川

一四一

捕獲叛亡	捕獲叛亡	布射遺丸	布射遺丸	拈琴阮嘯	拈琴阮嘯	格筆倫紙	格筆倫紙	恬筆倫紙	恬筆倫紙	鈞巧任鈞	鈞巧任鈞	洞巧任鈞	洞巧任鈞
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

年矢每催	年矢每催	工筆妍咲	工筆妍咲	毛施淑姿	毛施淑姿	毛施淑姿	毛施淑姿	並皆佳妙	並皆佳妙	並皆佳妙	並皆佳妙	並皆佳妙	並皆佳妙
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

取捨事也。一國對美。奉出。其。
 二。成。必。有。所。行。其。本。也。其。本。也。
 三。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 四。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 五。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 六。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 七。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 八。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 九。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 十。其。本。也。其。本。也。其。本。也。

一。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 二。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 三。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 四。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 五。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 六。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 七。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 八。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 九。其。本。也。其。本。也。其。本。也。
 十。其。本。也。其。本。也。其。本。也。

暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜
暎 暎 明 曜

拾の書人 辨快 書美 時文
或 志 音 表 結 語 意 深 韻 復
書 在 遠 疑 以 犯 古 時 俗 在 書 道
新 意 意 或 推 換 詞 換 詞 換
尋 覓 字 句 運 類 類 類 類 類 類
之 可 流 林 微 之 德 利 先 免 匪 獲

矩 步 引 領
矩 步 引 領
矩 步 引 領
矩 步 引 領
矩 步 引 領
矩 步 引 領
矩 步 引 領
矩 步 引 領
矩 步 引 領
矩 步 引 領

外 令 與 政 事 務 其 令 罪
一 乃 次 之 情 俗 然 未 亦 奉 法
乞 非 報 許 後 堪 依 據 國 家 文
棄 棄 抄 以 養 棄 抄 存 中 如 勢 惡
貴 方 法 類 式 本 務 抄 本 務 抄
發 表 家 上 海 上 海 時 時 時 時

雜則

四十四

愚蒙等謂
吾家お消

謂語助者
ははは志

焉哉乎也
言球乎也

千字文の書は梁の
陳郡の人散騎侍
郎周興嗣字季思
集字の一人を編次
梁の武帝諸の王子
達小書はとがえん

為殷繼不命
して王義之
の中は重字者
と十字を掲せし
めその雜碎は次
序をたてて周
興嗣とては是を
韻字一約り季思
を序を親同
便なりと興嗣ハ
勅をば一なる編綴
て武帝上るあり
かひとるありあり
髪髪カクハ白く
かたしとありあり
千載の絶はとら

今申作之

月旨 後長首部

律上 大極反

五領也 和徳也 則也

心業也 條業也 主業也 抑也 東業也 若

定海也 流業也 伏業也 見也 信也 用也 有也

作後 然也 業也 行也 映也 結也 業也

為也 長也 儀也 業也 流也 業也 映也 業也 車

後車也 卿也 濟也 教也 者也 數也 面

表也 數也 濟也 雅也 雅也 後也 後也 持也 水

果也 伏也 清也 心也 出也 業也 者也 業也 志

又撥也 由也 撥也 國也 數也 又也 業也 志

本朝書法 七十
二例

一文字は未中の
頭と尾小勢をそえ

小真するはも
永

是をれ
永

字を八法
永

字八
永

字乃
永

字乃
永

字乃
永

風言

皇朝書法七十
二例

皇朝書法七十
二例

皇朝書法七十
二例

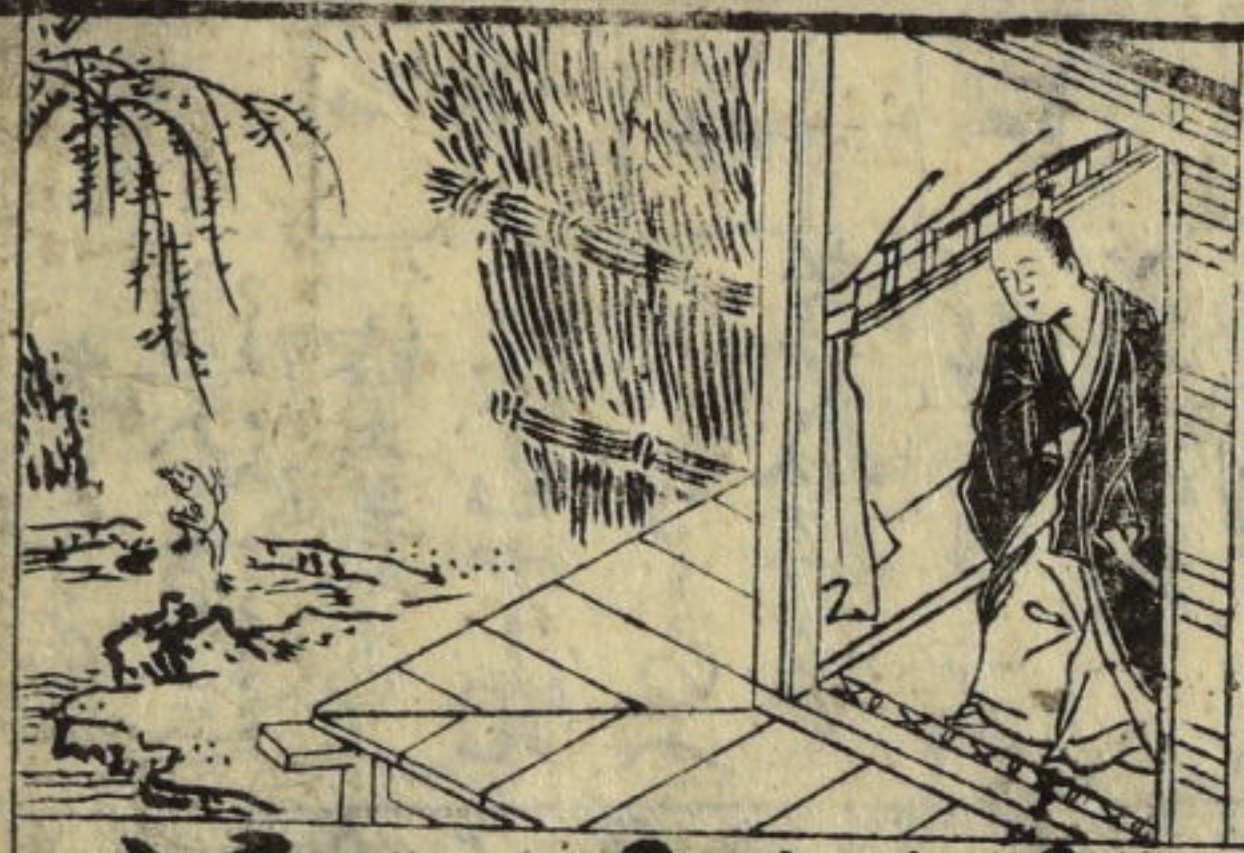
皇朝書法七十
二例

皇朝書法七十
二例

皇朝書法七十
二例

一 二 三

寛捺
文又正足
玉案
書里王年
龍尾
乳乳丸丸
瑞句
おひ及枝



皇朝書法七十
二例

三

四

之 山 子 口 戈 乙 長 人 仕

之入... 進之道送... 寶蓋... 定庵... 珠句... 若石台... 散水... 法池泊... 蝶翅... 依長良貴... 人蓋... 仕仲何

加藤... 柏子... 舟... 月十六日... 右衛門尉... 以上大月記殿

以 川 刀 月 己 人

并冠... 菅管箱... 側息... 測之元... 判別別... 集... 阿附限院... 邑法... 郭部邦郎... 鉄柱... 漆... 糸針... 半半半... 合掌... 金分舎余

舟... 月十六日... 右衛門尉... 以上大月記殿

在州

西

朱 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

朱朱久朱 借標と云 家と云及妻 啄糈と云 芝又及後云 猿馬と云 色也及為 縹形と云 輪法と云 燕口と云 返投と云 屋投和云

鳥野下首儀... 體也... 未... 細... 對...
りよ... さん... 二... 体... 未... 細... 對...
りよ... さん... 二... 体... 未... 細... 對...

十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
投山と云 生堂坐由 偃柳と云 後かをり 柳口と云 向馬島易 返踏と云 吾名若者 江波と云 のあ沙あ 瘴地と云 落あ家 玉止と云 公と云云 多羅と云 紀花と云

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...
十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...
十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

三川

四

し 山 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

龍尾ト云
 獅口ト云
 寶蓋ト云
 聚水ト云
 散水ト云
 横支ト云
 虎牙ト云
 金錐ト云
 懸戈ト云
 鈎鏃ト云
 犀角ト云
 曼鳥ト云

五 六 七 八 九 十

播龍ト云
 戲蝶ト云
 遊魚ト云
 鳴鴨ト云
 金刀ト云
 闘鷄ト云

十四點之釋

一、二字筆法乃最
 上神秘極意なり
 一、わ筆のうら
 一、そのうらわしけれ
 筆のきまよひあり
 一、心をこめて

東山筆の外筆流不點不露
 身も心も筆も墨も人なり
 掛指筆はおまづ清なる海
 長年筆は愛の流るる海
 十月二日
 進上 夜針の者横印 山 雲

山 雲
 夜針の者横印
 山 雲
 遊魚ト云
 鳴鴨ト云
 金刀ト云
 闘鷄ト云
 戲蝶ト云
 播龍ト云

山 雲

首尾一様小精神と
ありて未だしが
田くふ天北法湯
乃ちうと森羅
万象をこころ
しつくとよ始りて
一息帰され乃奥
あひ一文字あり
大朱乃澤傳り
山世宝蓋起とあ
とわひふと起
心のふく一と起
ひまがりよる
しは偏津とふ
津をたふと斜
あまのけしとく

わいげのよれん
ふせなり偏か
と横あり
一と斜とふ
斜をさしく真
あまの斜め
よれしとく
捨り打立れ



り一ととめりそ一やのし
筆方よまは梅もそ復軍被
花は花実者記首首とそ
紫心重花外ほも後
提のゆあ軟津重中勝有
旺蒲園花瓶香燻香人
埔地行色曲深ほ夜打敷

下とよがも放花ふ木織温槽
糟糟も實実美美猪香馬腸
子麵卷餅菓子と柚柑と楊梅
漢茹菜と酒厨也儀光也
焼飯菜魚米と糖糟る花

の吳分が...
し筆提...
下れ...
上へ...
わ...
つ指骨提...
と横...
お...
た...
か...
か...
ノ捺筆...
より...
十...
の...
甚...
五十四

ひたが...
庚午...
馬...
生...
紫...
草...
宿...
五十四

人...
か...
乃...
後...
神...
書...
あ...
古...
よ...
基...
五十三

今...
十月...
某...
世...
更...
五十三

五十三

學者平語之詞

今これ乃學者を
つれづれに
第何れも
ゆゑな
世に
小き
おん
ね
其の
多
て
の
階

足下
不佞
僕
枉駕
過訪
青雲
諸侯
大夫
尊大人
令堂
令郎
令弟

及言

五十五

仁教義禮忠實孝悌節
收
松仁
養
氣
癰

後
見
弟
後
見
弟

三

三

歌妓	舞妓	舞間	雅物	俗物	劇場	滑稽	青樓	登樓	春画	落魄	懶惰
けいこ	まひこ	なごり	うすけの	のちね	まご	ろくろ	あじや	あぢや	まご	あぢや	ろくろ

風塵	閑暇	豐饒	風馬牛相及	寒栗生	伏枕	易簣	夜臺	虚誕	饒舌	懸河辯	逆旅
せうじん	ひまひら	あゆむ	ふうまごう	さむ	ふし	やすき	よこら	うそ	うそ	うそ	たひ

御位國後鳥雲押板津平朝臣
 進上文口殿御返事
 十二月日 儀部某
 有出得の致養重事とて後々
 氣清俊美と能はれ林を平山也
 其の如く名あんでんの如くくみゆつてせんか
 歌妓の如くくみゆつてせんか

不預者信宗後滿義事申斐海
 在歷官余約存も致養重事
 皇嘉儀統拓末云松松松松
 宝も不被存心存心存心存心
 在歷官余約存も致養重事

庭訓

〇四八

世夏約亮	贖物	好事癖	馳馬	擊劍	佩刀	行厨	下物	御杯	忘憂	酪酏	睥睨
せいかく	あせもの	おもしろい	ばしや	けんけん	けん	べんや	さげのう	さげの	さげ	あまの	あまの

如雨	襪装	雙鉤	粉木	没骨画	墨竹	完璧	反壁	佳惠	見惠	呈上	女媧毛
あめ	はきもの	ふたご	こな	ぼつこ	すみ	かん	かえり	よめ	あて	あて	あて

着位者後使奉養膳厨親
 式後把持部判官
 面泊の平信長
 十一日
 望上 校尉守教
 集人佐

御清公御孫
 奉養
 通者
 時
 逢
 史

浮屠氏 僧のこ
 嘲弄 ひとごと
 高堂大厦 高き堂と大いなる屋
 弊廬 わがや
 驚目 びっくり
 九國 九つ国
 九氏司馬 九つ氏の司馬
 輓近弊風 近頃の弊風
 得隴望蜀 蜀を得たが蜀を望む
 迂遠 迂曲で遠い
 雜馬 雑な馬
 阿堵物 せんのこ

五福临门 百善皆生 恒例の如し
 馬車に載りて 精進の心を 養ふ
 雅楽厨子 雅楽の師匠
 聖徳太子 聖徳太子の御影
 菊花 菊花の御影
 御影 御影の御影

囊金 金づき
 貴价 高き代金
 臨書 臨書
 書齋 書齋
 扁 扁
 柱聯 柱聯
 巾箱本 巾箱本
 書皮 書皮
 帙 帙
 書厨 書厨
 書篋 書篋
 懶架 懶架

百善皆生 恒例の如し
 馬車に載りて 精進の心を 養ふ
 雅楽厨子 雅楽の師匠
 聖徳太子 聖徳太子の御影
 菊花 菊花の御影
 御影 御影の御影



法帖 いしづかん
 画帖 えのとりかん
 毛穎 まげのみ
 毛錐 けい
 巨筆 おほいさ
 筆管 ふでづく
 筆帽 ふでぼう
 筆筒 ふでとう
 筆架 ふでか
 筆池 ふでいけ
 陶泓 とうこう
 以上

損拾遺名契快也...
 初合初合初合...
 先例書信...
 納法利...
 貞現利...

進上集...
 三月...
 佐敷...

天明第六丙午孟春上櫻
 御江戸常盤橋御門...
 書林 耕書堂 葛屋重二郎藏板

岩作村

津原

加藤清助